

7幸教答申第 1 号

令和8年1月19日

幸田町教育委員会
教育長 池田 和博 様

幸田町教育委員会施策外部評価
委員長 米津 直希



令和7年度幸田町教育委員会施策評価について (答申)

令和7年11月18日付け7幸教諮問第1号で諮問のありました学校整備事業始め3事業について、別紙のとおり評価しましたので、意見を付して答申します。

記

1 付帯意見

令和7年11月18日に開催されました幸田町教育委員会施策外部評価委員会では、3つの事業を対象として審議を行いました。審議にあたりましては、施策の実施状況について担当課・担当者から事業内容の詳細なご説明をいただき、各委員からの質問にも丁寧にご対応いただきました。審議の結果、いずれの事業につきましても、おおむね高い評価が得られました。具体的な評価内容は「教育委員会施策評価一覧」に記しておりますが、ここでは、委員から出された意見のうち、特に重要と思われる点について、付帯意見として申し述べます。

「学校整備事業」につきましては、35人学級への移行に伴う学級数の増加への対応、空調設備の整備やICT化、建物の耐震化など、教育環境の整備が着実に進められていることを確認いたしました。トイレにつきましても洋式化・乾式化が進められておりますが、前述の対応等を優先していることから、なお未対応の学校があるとのこと説明を受けました。引き続き計画的な整備を進めていただくとともに、その際には多目的トイレの増設についても検討されることを確認いたしました。中学校での35人学級への移行やICT環境の整備など、法制度の変更に伴う対応が今後も続くことが見込まれますが、利用する

児童生徒および学校教職員を中心に据えた環境改善を、今後とも継続して実施していただきますようお願いいたします。

「図書館教育推進事業」につきましては、町全体として学校図書館の蔵書率100%の達成や全小中学校への司書教諭の配置など、いわば「読書環境の整備」と、読み聞かせボランティアや図書委員会による読書指導・読書活動の推進など、いわば「読書体験の整備」の両面で充実が図られていることを確認いたしました。地域のボランティアの積極的な活動や、学校によっては図書館の場所や書架の配置・スペースの工夫なども行われており、児童生徒が読書に親しみやすい環境が整っていることも確認できました。ICT化の進展により玉石混交のオンライン情報に容易に触れられる現代において、複数の編集過程を経た書籍による読書は重要な情報源であるとの意見が委員から出されました。このような観点からも、本事業は今後も継続・充実が求められる重要な取組であり、引き続き推進していただきますようお願いいたします。

「社会教育総務一般事業」につきましては、読書活動推進計画の取組状況についてご説明をいただきました。前段の図書館教育推進事業とも関わるものですが、本事業を通じて施設間の連携が強化され、「読書の記録（読書通帳）」の実践などにつながっていることを確認いたしました。実際に児童生徒が本を読む時間が増加しているとの報告もあり、事業の成果がうかがえました。委員会におきましては、電子書籍を重視するか紙媒体の本を重視するかについて意見交換が行われましたが、重要なことは、子どもたちにどのように読書の楽しさを伝え、本を手にする機会を確保するかであるという点について認識を共有いたしました。そのうえで、紙媒体の本に触れる場としての図書館の有用性や、電子書籍の利便性などについても確認されたところです。今後も、子どもや利用者の視点を議論の中心に据えて事業を実施していただきますよう、いっそうの充実をお願いいたします。

